

千葉大学医学部附属病院で髄液排除試験または髄液シャント術を施行された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年12月26日
リハビリテーション科

リハビリテーション科では、特発性正常圧水頭症の診断におけるリハビリテーション評価の有効性に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2017年1月1日～2023年7月31日の間に脳神経外科で髄液排除試験
または髄液シャント術を実施された方

1. 研究課題名

「特発性正常圧水頭症の診断におけるMDS-UPDRS-Ⅲの評価ツールの有効性：後方視的観察研究」

2. 研究期間

2023年承認日～2027年12月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

特発性正常圧水頭症(idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus :iNPH)は、何らかの原因で、頭蓋内に脳脊髄液が溜まり、脳が圧迫されることにより生じる歩行障害、尿失禁、認知障害を特徴とする病気です。iNPHの診断には、脳神経外科医師による診察や画像診断以外に、髄液排除試験を実施して歩行障害や認知障害など症状の改善の有無を確認する方法があります。リハビリテーション科では、脳神経外科より依頼を受け、歩行機能や認知機能、錐体外路症状の変化を評価しています。

本研究は、髄液排除試験前後の錐体外路症状の変化に着目し、リハビリテーション科で実施した評価方法の有効性を検討することが目的です。この研究により正常圧水頭症の病態解明

や手術適応の精度を向上させることができます。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、身長、体重、病歴、既往歴等の基本情報
リハビリテーション評価等の臨床情報（運動機能、歩行機能、認知機能、バランス機能、など）

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：リハビリテーション科 診療教授 村田 淳

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院リハビリテーション科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがあります、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。
(※研究成果の発表後以外に参加拒否の申し出に対応できないケースがあれば、その旨も記載してください) 情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

リハビリテーション科 診療教授 村田 淳

043(222)7171 内線6428

メール：reha-sakamonmon@chiba-u.jp（担当：坂本）